



人権教育だより 春休み号

令和6年(2024年)3月19日

鹿本農業高等学校

人権教育主任 野尻 貴輝

～いじめや差別のない学校づくり～

令和5年度が本日で終わりますが、いかがだったでしょうか。新型コロナが5類となり、さまざまな制限がなくなり、少しずつ以前の状態に戻りつつある1年でした。人権教育としましては、1月に各学年にて人権LHRを行いました。概要と生徒感想(抜粋)を紹介します。

【1月】

1年生・・・「子どもの人権」を学び、こども基本法やこども施策について考えました。

- ・自分のことだけでなく他人のこともしっかりと考えて今以上にいい生活をしたくなりました。
- ・しっかり考えたので、時間が早かったです。「相手のことを思って」がどれほど難しいか分かりました。
- ・自分では良い考えだと思っても、他の人は嫌かもしれないと思える人に私はなりたいです。

2年生・・・「統一応募用紙」社用紙との比較や、資料を読み、就職差別について考えました。

- ・自分の個人情報や親のことで差別が発生するのはおかしいと感じた。
- ・書きづらいところが多くてビックリし、差別があるのを知ってダメなことだと感じ、なくしたいと思った。
- ・差別やいじめはしてはいけないことなので、見て見ぬふりはせずはっきり言おうと思いました。

3年生・・・「外国人の人権」動画や異文化体験ゲームを通じて、考えました。

- ・無意識の偏見を持たずに相手の立場になって関わることで、生きやすい世の中になると感じました。
- ・外国人は言葉も伝わらず、不安でストレスがある中で仕事をしているのはとてもつらい、と感じました。
- ・相手のことを知ろうとすることが大事だと分かった。
- ・実際に関わったり、生活する立場になると「伝わらない、理解してくれない」という壁を無意識につくり出すかもしれない。人間にはそれぞれ感情があるが、様々な見方ができることを忘れてはいけない。

人権コラム「幸せを呼ぶ4つの口癖」

やまが人権フェスティバルで講演された吉井奈々さんは、自分らしく生きることの大切さを話される方でした。その著書を読み、特に印象に残った話が「幸せを呼ぶ4つの口癖」でした。「嬉しい・楽しい・大好き・幸せ」という言葉を、単語でつぶやくだけでそうです。相手に聞こえなくてもかまいません。口癖やつぶやきを変えると周りからの印象も変わるそうです。

私自身を振り返ると、4つの口癖を思っても口に出すことはほとんどありませんが、「ありがとう」という言葉はよく使っています。自分の口癖など振り返り、1日ひとつでいいから、プラスの口癖をつぶやいてみましょう。

本の内容が気になった方は図書館にありますので、ぜひ読んでみてください。

『未熟なまま輝く キミへ伝えたい 自分を大切に生きる生き方・考え方』吉井奈々著

○「令和5年度(2023年度)校内人権標語」優秀作品紹介

- ・話さないでわかることはない 話してみよう
- ・気づいてよ！わたしの心は さげんでいる
- ・その言葉 言うべきことか 考えて
- ・人それぞれ 違う個性を持っている それを理解してあげられる それが思いやり
- ・気づいてよ 笑顔のあの子の 心のキズ

春休みも健やかに暮らし、新年度笑顔で会いましょう！！



人権イラスト佳作
「アルメちゃん」
高校生